

AIR CAMP 2017

in

陸前高田

生活



9月22日(金)

23日(土)

24日(日)

二泊三日の合宿

主催/特定非営利活動法人S-AIR
助成/文化庁 平成28年度 アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業
国際交流基金アジアセンター

創造

アーティスト・イン・レジデンス事業人材育成キャンプ&フォーラムアジア

と



定員
15名
(先着順)

申込締切
2017年
9月11日(月)

参加費
30,000円

主催 特定非営利活動法人S-AIR
助成 文化庁平成28年度 アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業
国際交流基金アジアセンター
企画協力 なつかしい未来創造株式会社(陸前高田アーティスト・イン・レジデンスプログラム)
協力 AIR NETWORK JAPAN



npo S-AIR

AIR CAMP 2017

in

陸前高田

生活と

創造

アーティスト・イン・レジデンス事業人材育成キャンプ&フォーラム アジア

アーティスト・イン・レジデンスをテーマに全国から集った参加者が講師とともに思考し、多様な実践のあり方を探る、2泊3日の合宿型ワークショップ「AIR CAMP」^{エア キャンプ}。3年目となる「AIR CAMP 2017」は、これまで開催してきた北海道・札幌を飛び出し、陸前高田で開催します。

今年度のテーマは、「生活と創造」。東日本大震災から6年を経て、目まぐるしく変化してきた陸前高田において、今一度、AIRの原点と言える「芸術活動を行いながら、どのように生活を創るか」ということについて考えてみることにしました。陸前高田に暮らす人々の心の復興を目的に立ち上げられた「陸前高田AIR」、著しい経済・社会的発展と共に、実験的手法を取り入れた市民主導のプロジェクトを展開する東南アジアのアート・コレクティブなど、様々な地域において、それぞれの視点で取り組むプロジェクトを取り上げ、講師を招きます。AIRにおける「生活と創造」の可能性、地域との関係性、地域の生活から生まれる創造の可能性を、皆さんとともに見出すことができればと考えています。

NPO法人S-AIR代表 柴田尚

●参加者募集要項

対象：日本国内でAIR事業を運営している方、AIR事業開始を検討中の個人・団体、地方自治体・まちづくりに携わる方、コミュニティとアート、東南アジアのアートに関心のある方

定員 15名(先着順)

申込締切 2017年9月11日(月)

参加費 30,000円

滞在場所：箱根山テラス

2泊朝食付き、全プログラム参加費、いわて花巻空港やJR一ノ関駅までの送迎・視察の移動費含む。

※当宿泊施設は全てツインルームになります。1名での参加の場合は相部屋になりますので、ご了承ください。
※交流会は別途参加者負担

●参加申込

参加ご希望の方は、メールにて、お名前、性別、郵便番号、住所、電話番号、応募動機(ご自身の活動に関連付けて、200字程度でお書きください)、3日目のランチ予約の有無をご記載の上、以下のアドレスまでお申込みください。

info@s-air.org (担当:松田)

●キャンセルについて

一度された申込をキャンセルする場合は、9月11日(月)までにご連絡ください。それ以降はキャンセル料として10,000円が発生します。ご了承の上、お申込みください。



アーティスト・イン・レジデンス事業人材育成キャンプ & フォーラム アジア

AIR CAMP 2017

in 陸前高田

生活と創造

インフォメーション

NPO法人S-AIR

<http://s-air.org>

[プログラムの詳細等、随時FBで紹介予定!](https://www.facebook.com/sairorg/) <https://www.facebook.com/sairorg/>

1999年度、札幌アーティスト・イン・レジデンス実行委員会を発足、2005年、NPO法人S-AIRとなる。2004年以降から10年間、ICC(さっぽろ産業振興財団管轄、インタークロス・クリエイティブ・センター)とのタイアップでAIR事業を展開。現在は再び、インディペンデントな組織として独自の事業路線を進めている。現在までの18年間で36カ国、92名の滞在制作をサポートするほか、S-AIRアワードとして、海外9カ国、12施設、15名の派遣事業も行っている。2015年度からは、レジデンス運営における人材育成を目的とした合宿型ワークショップ「AIR CAMP」をスタートさせた。

箱根山テラス

<http://www.hakoneyama-terrace.jp/>

箱根山テラスは、2014年秋に「木と人をいかす」をテーマに陸前高田にオープンした宿泊・滞在施設。

美しい広田湾を臨む広い階段状のテラスをはじめ、施設のどこにいても、光や風によって自然の心地良さを感じることができる設計となっている。野菜料理を中心に、丁寧に手をかけた優しい味わいの朝ごはんはもちろん、テラスで気軽に楽しめるワンプレートランチなど、ランチメニューも好評(ランチは要予約)。

陸前高田市小友町1-232 TEL 0192-22-7088



タイムスケジュール

1日目 9月22日(金)

- いわて花巻空港 12:15 集合
- JR一ノ関駅東口改札前 13:00 集合
※ご都合の良い集合場所をお選びいただけます。
- 送迎車で移動
- 14:30 リアス・アーク美術館訪問
「東日本大震災の記録と津波の災害史」
- 15:30 送迎車で移動
- 16:00 奇跡の一本松到着、付近の散策
- 16:30 たね屋視察
- 17:30 箱根山テラス到着
- 18:00 オリエンテーション(S-AIR、講師紹介)
- 18:30 プレゼンテーション
「陸前高田AIRについて」
プレゼンター:
日沼禎子(女子美術大学准教授・陸前高田AIRプログラムディレクター)
松山隼(陸前高田AIRプログラム コーディネーター)
- 19:30 交流会、参加者自己紹介
※交流会費として別途2,000円いただきます。
- 21:00 終了

2日目 9月23日(土)

- 10:00 プレゼンテーション
「公(パブリック)にすること チェメッティー
インスティテュート・フォー・アート&ソサエ
ティの歴史と未来を主観的に読み取る」
プレゼンター:
アレック・ステッドマン(Cemeti - Institute for Art and
Society共同チーフキュレーター) ※通訳あり
- 11:00 プレゼンテーション
「ランド・ファウンダーションのソフト的自
給自足性と無条件性」
プレゼンター:
ウバトサット(The Land Foundation) ※通訳あり
- 12:00 伝承館訪問 + 併設のはこね食堂で各
各自昼食
- 13:30 プレゼンテーション
「まれびととしてのAIR、旅する原始感覚
と原始感覚美術祭について」
プレゼンター:
杉原信幸(信濃の国 原始感覚美術祭アートディレクター)
- 14:30 ショーネッド・ヒューズ(ダンサー、コレオグラファー)
レクチャー「ダンス」によって測られる時間 -
「ホーム」の尺度としてのコミュニティ &
柿内沢鹿踊保存会による鹿踊WS ※通訳あり
- 16:15 プレゼンテーション
「Lifepatch - 芸術、科学、テクノロジーに
おける市民の取り組み」
プレゼンター:
ヌル・アクバル・アロファトゥラ(Lifepatch共同創設者)
※通訳あり
- 17:30 オープン・ダイアローグ
- 19:00 まちなかへ移動して、各自夕食
※スタッフおすすめの食堂や居酒屋にご案内します。

3日目 9月24日(日)

- 10:00 トーク: 島山直哉(写真家)
聞き手: 日沼禎子(女子美術大学准教授・陸前高田
AIRプログラムディレクター)
- 11:00 まとめ①
「生活と創造」をテーマに、
実践してみたいプランを発表
- 12:15 各自昼食
※はこね食堂まで徒歩5分。
コンビニ等はありません。
希望者は箱根山テラスのランチ(1,000円)
予約を承ります。
- 13:00 まとめ②
「生活と創造」をテーマに、
実践してみたいプランを発表
- 14:30 箱根山テラス出発
- いわて花巻空港 16:30 着・解散
- JR一ノ関駅 16:15 着・解散
- やむを得ず予定が変更になる事があります。あらかじめご了承ください。
- 海外ゲストとのコミュニケーションは、ミニマムな通訳サ
ポートがあります。
- スタッフが随時ファシリテーターとして、参加者と一緒に
活動します。いつでもご相談ください。

講師プロフィール



ウバトサット Ubatsat

アーティスト、アクティビスト、
The Land Foundation メンバー(タイ)

1980年タイ、バンコク生まれ。タイのアーティスト、アクティヴィスト、またキュレーションも行う。The Land Foundationのメンバー。ウバトサットのアートに対する考えは、彼自身を取り巻く関係性や、生活そのものを理解するために機能している。その主な手法は、一度は破局を体験した人々と集団で協働することによって、社会文化的変化を促進し、理解を深め、協働でのクリエイション意識を共有する活動を行うことである。彼の作品と活動は個としての捉えではなく、集団の中で個性を特定付けられる「中間的」なアーティストの存在として、理解することができる。従来とは違った考え方と実践によって、アートをコミュニティまたは生活の中に浸透させる、発想豊かで遊びに戯れるようなアーティストである。

The Land Foundation

1998年、2人のタイ人アーティストKamin LertchaiprasertとRirkrit Tiravanijaが、チェンマイ郊外の休耕田を拠点に開始した、新しい土地活用のプロジェクトを前身としている。2002年には同地にアートセンターが建てられた。現在のThe Land Foundationは2004年に設立。The Land Foundationは人間社会の関わり場の場として、対話と情報共有に視点を置いた芸術文化、持続可能な農業、瞑想による自己啓発活動などを展開している。これまで実験的なコミュニティ形成のプロジェクトを行っており、そのモデルは海外でも参考にされている。



畠山直哉 Naoya Hatakeyama

写真家(東京都)

1958年岩手県陸前高田市生まれ。筑波大学芸術専門学群にて大辻清司に師事。1984年に同大学院芸術研究科修士課程修了。以降東京を拠点に活動を行い、自然・都市・写真のかかわり合いに主眼をおいた、一連の作品を制作。国内外の数々の個展・グループ展に参加。作品は以下などのパブリック・コレクションに多数収蔵されている。国立国際美術館(大阪)、東京国立近代美術館、東京都写真美術館、ヒューストン美術館、イェール大学アートギャラリー(ニューヘブレン)、スイス写真財団(ヴァンタートゥーア)、ヨーロッパ写真館(パリ)、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館(ロンドン)



日沼禎子 Teiko Hinuma

キュレーター、女子美術大学芸術学部
アート・デザイン表現学科アートプロデュース
表現領域准教授、陸前高田AIRプロ
グラムディレクター(岩手県、東京都)

©Hideki Nagase

女子美術大学芸術学部卒業。ギャラリー運営企画会社、美術雑誌編集者等を経て、1999～2011年まで国際芸術センター青森設立準備室・同学芸員として、アーティスト・イン・レジデンスを中心としたアーティスト支援、プロジェクト、展覧会を多数企画、運営に携わる。さいたまトリエンナーレ2016 プロジェクトディレクター等を歴任。



アレック・ステッドマン Alec Steadman

Cemeti - Institute for Art and Society
共同チーフキュレーター(インドネシア)

キュレーター、リサーチャー。設立者であるNindityoとMellaが、設立30年を期に一線を退き、Cemeti - Institute for Art and Societyの共同キュレーターとなる。2016年まで、イギリスのアーツ・カリストにてキュレーターを務めた。それ以前の活動として、香港のアジア・アート・アーカイブ(AAA)にてエキシビション・スタディーズ・リサーチ・フェロー(2015)、エジプトのコンテンポラリー・イメージ・コレクティブにてアーティストティック・ディレクター(2013)、イタリアのサンドレット・レ・レバウデンゴ財団現代美術館にてキュレーター・イン・レジデンス(2013)、オランダのデ・アペル・キュレトリアル・プログラム(2011-12)等がある。

Cemeti - Institute for Art and Society

1988年設立のインドネシアで最も古い現代アートのプラットフォーム。「Cemeti Gallery」「Cemeti Art House」と変遷した後、30周年を迎える2017年、「Cemeti - Institute for Art and Society」として新たなチームに引き継がれた。年間プログラムは展覧会、ワークショップ、Cemetiを公共に開かれたものとして再調整・想起させるための「メンテナンス・ワーク」と呼ばれる集まりで構成。2018年2月以降には、地元や海外のアーティスト、研究者との長期的なコミッションワーク、レジデンスプログラム、アートやキュレーションの教育のプラットフォームなどを通し、ジョグジャカルタの様々な人々たちとつながるプログラム(現在開発中)を開始予定。



シヨーンレッド・ヒューズ Sioned Huws

ダンサー、コレオグラファー(イギリス)

1965年生まれ。1989年にニューヨークのマース・カニングハム・スタジオで学びながら、コンテンポラリーダンスとパフォーマンスを創作し始める。2008年から石川流の師範、石川義野から津軽手踊を学び、現在は岩手で行山流山口派の柿内沢鹿踊を学んでいる。彼女の作品は知覚、記憶、人、振付の構造内での場所、つまり身体的な運動の認識を通して感じられる範囲において、予想外のことを可能にする細部をパターン化するシステムにフォーカスしている。長期にわたって日本と欧州のダンサー、歌手、ミュージシャン、地域社会とコラボレーションするプロジェクトを行っており、青森プロジェクトでは2008年の創立時から芸術監督を務め、世界各地でのツアーも行っている。



松山隼 Jun Matsuyama

陸前高田AIRコーディネーター、
アーティスト(岩手県)

1985年宮城県生まれ。東北芸術工科大学芸術文化専攻修了後、山形で若手クリエイターのシェアアパート「ミサワクラス」を立ち上げ、2009年から2013年まで運営。同大学の助手、ファシリテーター(講師)を勤めた後、2013年より陸前高田AIRのコーディネーター、2015年より国際ダンス交流プロジェクト「Odori-Dawns-Dance」のコーディネーターを務める。



ヌル・アクバル・ アロファトゥラ Nur Akbar Arofatullah

研究者、
Lifepatchの共同創設者(インドネシア)

農業バイオテクノロジー分野の研究者で、現在は東京農工大学大学院生物生産科学専攻に在籍。先端的な研究を行う傍ら、自分でもなぜ作ったかわからないような様々な装置を作ることを趣味としている。現在は、茨城県稲敷郡阿見町に在住し、DIYで取り組む生物学と、汎用・低コストな実験装置の開発に興味を持っている。さらに、茨城大学で、温室管理のためのオープンプラットフォームのユビキタス環境制御システム(UECS-Pi)の導入に取り組みつつ、東京農工大学大学院でトマト苗の熱ショック誘導抵抗性の分子メカニズムを研究中。

Lifepatch - citizen initiative in art, science and technology

アート、科学、テクノロジーの領域で横断的な活動を行う組織。インドネシアのジョグジャカルタを拠点に、2012年の結成以来、地域社会におけるテクノロジー、天然資源、人的資源の調査・研究・開発に取り組んでいる。とりわけ地域と協働する活動においては、多様性の実現とクリエイティブ性の活性化を図るため、その環境づくりを重点的に行っている。発酵技術やプログラミング等の技術を多用したワークショップを多数開発。スタジオでの自主企画のほか、Hackteriaネットワークと協働し、2014年にはオープンソースを活用したアート・科学におけるプロジェクトのプラットフォーム「HackteriaLab」を共同開催。



杉原信幸 Nobuyuki Sugihara

アーティスト、信濃の国 原始感覚美術祭
アートディレクター、NPO法人原始感覚舎
理事長(長野県)

1980年長野県生まれ。2007年東京藝術大学油画専攻修了。詩人の吉増剛造ゼミ参加。2008年個展「丸石座」詩人の吉増剛造と共演。2010-12年「会津・漆の芸術祭」参加(嘉永蔵/二十間蔵/福島)。2011/2012年「ストーンサークルフェスティバル」(大山ふるさと資料館/小牧野遺跡/青森)縄文友の会(田口ランディ、山田スイッチ)と現代のストーンサークル制作。2016年「ストーンプロジェクト」(スウェーデン)、2017年「北アルプス国際芸術祭」(長野)参加。2014年「大町冬期芸術大学」空間美術コース講師。2010年より「信濃の国 原始感覚美術祭」を主催。

信濃の国 原始感覚美術祭

探検家・食生態学者の西丸震哉の記念館を中心に、木崎湖畔で無農薬のお米作りを行う農家の心意気に惹かれて集まった仲間たちが、大地とともに生きる「生活における花」としての祭を作り上げてきた。原始感覚をキーワードに、ジャンルを越えた表現者を招へいし、木崎湖畔で滞在制作を行うことで、その土地に生きる人と出逢い、その地でき生まれえない作品制作と、公演・ワークショップを行う。

陸前高田アーティスト・イン・レジデンス プログラム

2013年より、海外から日本へ、東北へ思いを寄せる国内外のアーティストが地域に滞在し、人々の生活に寄り添いながら、大切な記憶を拾い上げ、記録し、伝えることを目的とした活動を行う。アーティストによるリサーチ、制作、交流を中心に、東北各地でアートを軸とした活動を行なう人々をつなぎ、共に考える「陸前高田ミーティング」等を実施している。